



第十卷第二十二號



寒風

ゆるいよ

風が野を貫いてゆく。どこ迄つめたい風なのであらうか。そのゆく  
 處、觸るゝ處、もの皆荒み敗られぬはない。つれなや只一ひら残る梢  
 の枯葉をだに、吹き拂ひふるひ落さではやまぬといふ。落された枯葉  
 の群が、哀れやがさくと吹きまくられてゆく。どこ迄厳しき追窮の  
 風なのであらう。

省みればわが心にも、此の寒風のすさみはあるまいか。わがゆく處、  
 觸るゝ處、一陣荒涼のつめたさを現じ、苛酷のつれなさを撞にする  
 様のことはあるまいか。其の目、其の唇、風の様に人を貫き、割き、  
 迫め、傷くることはあるまいか。

風に荒らされた野は、また來ん春の恢復もある。一度び寒風に荒ん  
 だ心は、また恢復のよすがもない。

願はくは寒風をしてひとり野を吹かしめよ。わけても柔き子供の前  
 に、わが怖ろしき寒風をして荒まざらしめよ。